**第3課　イエス様の御名2018.7.22**

◎賛美(一同) : 韓日91番、韓日94番

◎信仰告白(一同) :使徒信条　　◎御言葉朗読(一同) :マタイの福音書 1章21節

◎本文朗読　◎主の祈り(一同) : 最後に

◎ 今日のマナ　聖書はイエス様について語っている本です。旧約は来られるイエス様、新約は来られたイエス様と再び来られるイエス様を語っています。旧約と新約に登場するイエス様の御名を勉強する時、神様の恵みをより豊かに経験することができます。

**1. 旧約が語るイエス様**

旧約ではイエス様を直接語っているよりは、新約に登場されるイエス様を預言する形で語っていますが、主に予表の方法が用いられています。予表とはイエス様に似た類似した対象を通してイエス様を表すことを言います。旧約はイエス様を次のように予表しています。

一つ目、‘過越の子羊’です。430年間エジプトで奴隷生活をしたイスラエルの民たちはエジプトから出てくる前日の夜、神様の命令に従って傷の無い子羊をほふって食べ、この子羊の血をかもいと門柱に塗って神様がエジプトに下された裁きを逃れました(出エジプト12：1-14)。彼らはこの日を過越として定め、毎年守り、神様が与えられた救いの恵みを記念しました。新約聖書は過越に死んだ子羊が私たちのためにいのちを捨てられたイエス様を予表していると言います(Ⅰコリント5：7、Ⅰペテロ1：19.ヨハネ1：29)。過越の子羊のように私たちを救うためにいのちを捨てられたイエス様に感謝します。

二つ目、‘モーセの青銅の蛇’です。出エジプトしたイスラエルの民たちは荒野を歩く間、絶えず不満を言い続けました。神様は不満を言うことをやめない民たちに燃える蛇を送られ、多くの人々が噛まれて死んでしまいました。しかし民たちが過ちを悔いるとモーセが神様の命令に従って青銅の蛇を作り旗竿の上につけ、これを見た人々は生きるようになりました(民数記21：4-9)。新約聖書でイエス様は自分をこのモーセの青銅の蛇に例えておられます。正確に言うならば、モーセの青銅の蛇が上げられたように、自分も上げられなければならないと言われました。十字架に架かられよみがえられたイエス様を見上げる人々は、モーセの青銅の蛇を見上げたイスラエルの民たちがそうであったように必ず生きることでしょう(ヨハネ3：13-15)。

三つ目、‘インマヌエル’です。アハス王の在位の時期に南ユダは北イスラエルとアラムの挟撃で危機に置かれました。この時神様は預言者イザヤを通してアハスに勝利を与えてくださると語られますが、アハスはこれを信頼できませんでした(イザヤ7；10-12)。だから神様が自らアハスにしるしを与えられましたが、それがまさに処女がみごもり生まれる息子インマヌエルでした(イザヤ7：14)。インマヌエルは‘神様が私たちと共におられる’という意味でおとめマリヤから生れたイエス様を通して成就されました(マタイ1：23)。インマヌエルのイエス様を信じる人々はいつも共におられ、助けられる神様の恵みを受けて生きるようになります。

四つ目、‘苦しみを受ける神様のしもべ’です。イザヤ52章13節から53章全体は神様のしもべについて語っています。ここでこのしもべは、人々から捨てられてさげすまれ、ムチ打たれるなど苦しみを受けますが、この全てのことをイスラエルの民たちの罪と咎、そして愚かさの故でした。神様はこの苦しみを受けるしもべを喜ばれ、彼を通してイスラエルの民たちは平和を受け、癒され、贖いを受けます。新約聖書ではこの苦しみを受けるしもべはイエス様を予表していると言っています(マタイ8：17、ローマ4：25、Ⅰペテロ2：24)。神様が選ばれた救いの方法は偉大な知恵、力強い力ではない、犠牲を伴った愛です。全人類のために苦しみを受けられ罪を背負われたイエス様を信じる人々は救いの贈り物を受けます。

**2.新約が語るイエス様**

‘イエス’は‘主が救われる’という意味でイエス様は名前から救いと関連しています(マタイ1：21)。新約ではイエス様を次のような称号で語っています。

一つ目、‘キリスト’です。キリストは‘油注がれた者’という意味で旧約が言う‘メシヤ’のような言葉です。イスラエルの人々は代々、祭司長、王、預言者に油を注ぎ、特別な働きを遂行するようにし、彼らは神様の力を受けイスラエルを守りました。従って、イスラエルの民たちは自分たちを異邦人の圧政から救ってくれるメシヤを望みましたが、イエス様がキリストとして来られたことは彼らの望みが成就されたということを意味します。しかしキリスト・イエス様は人の期待より神様のみこころを成すために来られました。キリスト・イエス様は十字架に架かられ死なれることで異邦人の圧政ではない、罪からの救いを成就され(ヨハネ17：3)、イスラエルだけでない、全人類の救い主となられました(使徒20：21)。

二つ目、‘主’です。イエス様が主ということは以上に意味深い事です。なぜならば、イスラエルの民に主という表現はただ神様にだけ適用することができたからです。従ってイエス様を主と呼ぶことはイエス様を神様と同じ方として認めることを意味します(ピリピ2：6)。‘主’であるイエス様は万物の創造主であられ(ヨハネ1：1-3)、唯一に救いを与えることのできる方であり、私たちの礼拝を受けるにふさわしいお方です。

三つ目、‘神の御子’です。神の御子という称号はイエス様の神性を強調する表現です。全ての人々はアダムの子孫で原罪の下にいるので、神様のみこころに従順できず救いを成すことができませんでした。しかしイエス様はアダムの血統から生れられずに聖霊によってみごもり神様から生れられたので、神様のみこころに完全に従順され救いを成すことができました(ローマ5：18-19)。救いの主であるイエス様を信じる時、私たちは救いを受け神様の子供になることができます。

四つ目、‘人の子’です。人の子はイエス様がこの単語を3つの用法で用いられました。①イエス様がご自身を自称される時(マタイ8：20、16：13、ヨハネ3：13)、これを通してイエス様の人性を知ることができます。②イエス様ご自身が苦しみを受けるしもべとして来られたことを自称する時に用いられました(マルコ8：31)、これを通してイエス様は死とよみがえりを通して救いを成す方であることを知ることができます。③イエス様がご自身の再臨について語りながら用いられました(マタイ24：30、ルカ21：27)、これを通してイエス様は必ず再び来られて世を裁かれることが分かります。

◎ マナの要約

<旧約が語るイエス様>

1.旧約の‘過越の子羊’は私たちのために命を捨てられるイエス様の予表です。

2. 旧約の‘モーセの青銅の蛇’は十字架に架かられ死なれることでいのちをくださるイエス様の予表です。

3. 旧約の‘インマヌエル’は私たちといつも共におられ助けられるイエス様の予表です。

4. 旧約の‘苦しみを受ける神様のしもべ’は私たちの罪と病のために苦しまれたイエス様の予表です。

<新約が語るイエス様>

1. ‘キリスト’であるイエス様は全人類を罪から救われた救い主です。

2. ‘主’であるイエス様は私たちの礼拝を受けられる神様です。

3.‘神の御子’であるイエス様は唯一の救い主です。

4. ‘人の子’であるイエス様は私たちのために苦しみを受けるしもべであり、終わりの時は裁き主です。

◎ 私の人生のマナ

<隣の人にあいさつ>

1. 聖書を通してイエス様を知っていきましょう。　2.イエス様が私たちのために死なれました。

3. イエス様は私たちの主です。

<祈り>

1. 聖書を読んで黙想する時、イエス様をより深く知るように祈りましょう。

2. 毎日、イエス様と共に歩むように祈りましょう。

3. イエス様を隣人に伝える信仰の人になるように祈りましょう。

<とりなしの祈り>となりの人と祈りの課題を分かち合い共に祈りましょう。